



2月はフラキッズ一年の総決算。学習の成果を試す、JETと漢検を実施しました。初めて受ける検定試験にドキドキしながらも必死に問題を解く1年生の姿は、大きく成長の跡を感じさせてくれました。結果はともかく、目的を持って頑張ることの大切さ、その証として級や賞が与えられることのやりがいや達成感、そして何よりお父さんお母さんから褒められることの喜びを、一人一人が肌で感じてまた明日から継続して頑張りたいと願っています。

プライムキッズステーション代表 齋藤 和宏

～JET(ジュニアイングリッシュテスト)～

●2月8日～14日●

レプトン受講生の中で Bird6 終了レベル以上の生徒を対象に、レプトンの授業時間に実施しました。両店舗で合計18名が受検。JETは、暗記や読解を中心とした従来型英語学習の成果ではなく、英語運用能力を測定する事を目的に開発された、目に見えにくい成果を確かめ、正しく次のステップへ進むための指標となるテストです。英語初期学習レベルから TOEIC®までのコミュニケーション英語能力の進捗過程をシームレスに確認できるテストプログラムで、TOEIC®を開発、運営する米国 ETS と同じ開発者によって運営されています。

レプトンの詳細については既にフラキッズ通信 2022 年 3 月号で説明をさせていただきましたので、未読の方はこちらをご覧ください。(フラキッズ通信 2022 年 3 月号 ⇒ http://www.primekids.jp/PDFs/tsushin/2022_3.pdf)

今月は、レプトンを運営する FREEMIND 社から発行されたニュースレター「レプトンに対する4つのギモン」を次ページに添付させていただきますので、是非ご覧いただければと思います。

～漢検(漢字能力検定試験)～

●2月18日(土)●

任意の申込者を対象に実施しました。

読解力、表現力の基本となる語彙力強化には漢字の習得が欠かせません。今年両店舗で合計38名が受検、全員が学年相応級以上を受検しました。まだ学校では習っていない漢字も出てきたけど、昨年11月から約3カ月かけて練習してきた万全の態勢で試験に臨みました。結果が出るまでしばらく時間がかかりますが、全員合格を祈ります!!

級	受検者数
10級	19
9級	10
8級	5
7級	1
6級	3
計	38



フラィムギャラリー♪



節分

季節イベント

雑祭り



鬼は外、福は内♪子供たちの元気な声が響き渡りました。



十人十色のお内裏様、お雛様が出来上がりました



やっぱり外は最高!少しずつ暖かくなってきました(^)



お誕生日おめでとう!
お誕生会の準備、司会進行は全て子どもたちが行います。

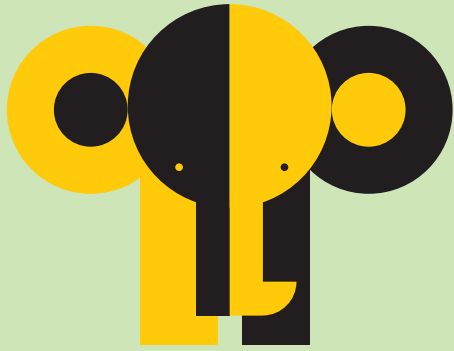
～フラィムキッズからのお願い～

コース変更・・・毎年、年度替わりの時期には、コースの変更を検討される方が多くいらっしゃると思います。コースの変更は、毎月10日が締め切りとなります。10日までのコース変更届ご提出で翌月からの変更が可能です。ご退会・休会も同様に、10日までの退会・休会届のご提出で、当月末までのご退会・休会が可能です。10日を過ぎると翌月からの変更が不可能(料金が発生)しますのでお気を付けください。ただし、「2023年度プライムキッズステーション利用申込書」を1月中にご提出いただいた方は4月1日からの変更について上記届出書類のご提出が省略できます。

プライムキッズステーションホームページ
<http://www.primekids.jp>



◦プライムキッズ日常の様子をホームページからご覧いただけます。
◦ホームページから、ガイドブックや各申請書がダウンロードできます。



レプトンのお悩み・ギモンに お答えします!

「うちの子、大丈夫かな?」「ちゃんとできているのかしら?」など、新しいことを始めるときは、誰でも不安になるものです。今回は、レプトンに入会されて間もない生徒さんの保護者様からよくいただく、4つのお悩み・ギモンにお答えします。

Q1 アルファベットの小文字がなかなか覚えられない…。 [入門レベル]

A アルファベットの小文字には日本語にはない特徴があるので、子どもたちがとまどうのは当然です。あせらずじっくり取り組みましょう。



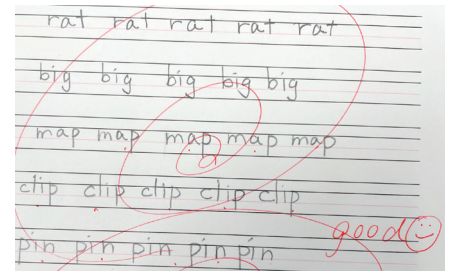
小学校ではふつう、5年生でアルファベットの読み書きを習いますが、レプトンでは、年中の生徒さんを含め、一番初めての学習になります。

簡単そうに思われるでしょうが、アルファベットの小文字には、日本語の文字にはない特徴があり、特に小さなお子さまには、大きなハードルになります。

たとえば、bとd、pとqの左右線対称の「鏡面文字」は中学生でも間違えます。入門レベルの『BIRD』テキスト(全6巻)では、単語の読み書き練習を通して、小文字の定着を図ります。



小学3年生までの英語初学者のお子さまは、『BIRD』テキスト6巻が終わるまでに、小文字のマスターを目指せば大丈夫です。標準の週2回受講の場合、半年程度が目安となります。



Q2 単語の読み書きに、たくさん時間をかけるのはなぜ? [入門レベル]

A 小文字をしっかり定着させるためと、「フォニックス」で発音の基礎を学ぶためです。

文字	名前	発音
C/c	シー	ク
A/a	エイ	エア
T/t	ティー	トゥ

A, B, Cなどの文字を覚えただけでは単語は読めません。たとえば、cat(ネコ)は「シー・エイ・ティー」ではなく、c「ク」+a「エア」+t「トゥ」で「キャット」と発音しますよね?

①アルファベットの名前と発音の違い、そして、②2文字以上が組み合わせられた単語で、こういうつづりのときはこう読む、というルールを「フォニックス」と言います。

②については、入門レベルの『BIRD』テキストで、cap「キャップ」、map「マップ」、tap「タブ」のap「エアプ」のように、〈同じつづりと発音〉を持つ単語を数十個のグループに分け、読み方を、理屈ではなく体で効率よく吸収していきます。



cap



map



tap

フォニックスはもともと、アメリカの小学校など英語圏の子どもたちの読み書き指導に使われてきました。しかし、日本の小中学校では、アルファベットの名前と発音の違いに少しだけ触れるか、あるいはまっ

たく指導されていないのが一般的です。

文字が「あ」なら、発音も「あ」になる日本語とは大きく違う特徴なので、小さなお子さまはよく混乱します。

そのため、特に年中～小学3年生の英語初学者には、フォニックスの学習にじっくり時間をかけます(標準の週2回受講で半年程度)。

このテキストで学習します! /



入門レベル
『Phonics Alphabet』
1冊で、アルファベットの名前と発音の違いを短期集中学習



入門レベル『BIRD』(全6巻)
単語で2文字以上が組み合わせられたときの、つづりと発音のルールを体感的に学習

Q3

英会話教室に通っていたから、もっと難しい英語も聞き取れるのに…。
どうして初級レベルのテキストから始めるの？ [全レベル共通]

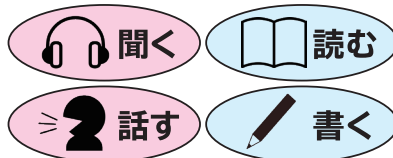
A 4技能のバランス矯正、特に「読み書き」力を強化し、既習内容の定着を図るためです。

英語学習経験が数年あるのに…
✓“Thank you.” が読めない
✓“I’m fine.” のfineを何度も読み間違える
✓アルファベットが全部書けない
これらは、めずらしいことではありません。

「聞く・話す」が中心の英会話教室や英語幼稚園・学童などでは、「読む・書く」の学習は原則行われません。

そこで、4技能のバランスを矯正するために、あえて初級、あるいは入門レベルのテキストからスタートし、読み書き力を強化する必要があります。

初級レベル、あるいは入門レベルのテキストを使って、読み書きの基礎をしっかり鍛えながら、過去に学習した内容をきちんと定着させることは、決して遠まわりではありません。



特に、単語や文を書く練習は、最初はなかなかスムーズに進まないのが嫌がる子もいます。でも、コツコツ続ければ、書くスピードもじきに上がり、テキスト進度も早まります。

「ディクテーション」でリスニング力とスピーキング力を強化!

初級レベルの『BUTTERFLY』テキスト以降では、文を聞いて、一字一句もらさず書き取る「ディクテーション」に毎回チャレンジ。単語を正確につづる力と文を書くスピードを強化します。

ディクテーションは、大学生のTOEIC®対策でよく推奨されているトレーニングで、みんな最初は苦勞する「難所」です。

高学年でも、コツをつかむのに、早くても1ヵ月ほどはかかるとお考えください。



中級・上級レベルの生徒さんの練習の様子を撮影した動画(約1分)は、右の二次元コードから、スマートフォン等でご覧ください。

Q4

習ったことが、ちゃんと定着しているのかしら? [全レベル共通]

A 「ファイナルチェック」と「JET (ジェット)」の2つのテストで、きちんと定期診断しています。

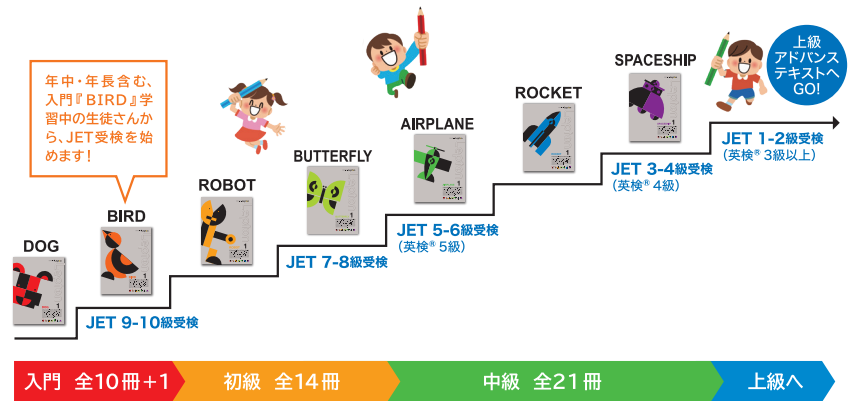
レプトンでは、以下の2種類のテストを使って、学習の定着度を確認しています。

① ファイナルチェック

各テキストで学習したことの理解度をチェックする“確認・復習”テスト。テキストが1冊終了するたびに行いますので、標準の週2回受講では、ほぼ毎月受けることになります。

② JET (ジェット)

レプトン生以外の一般の方も受けている“実力”テスト。「どれだけ英語が上手に聞けて、読めて、理解できるようになったのか?」を客観的に評価するのが目的。最大で年4回の受検機会があります。



テキストは、標準の週2回受講で月1冊進むのが理想的です。「10月までに『BIRD』6巻のファイナルチェックに合格する!」、「2月のJETで3級合格!」のように、(数ヵ月単位の)具体的な目標としてテストを設定すると、子どもたちはより頑張れますよ!



【最後に、保護者の皆様へ】

皆様ご自身が経験されたように、英語習得には時間がかかります。“英語ペラペラ”の超上級レベルを目指すなら、小中高での英語授業約1,000時間のほかに、追加で最低1,000時間の自己学習が必要と言われています(※米国国務省Foreign Service Instituteの統計などより)。

最初の1~2年ほどは、歩みが遅く見える時もあるかもしれませんが、着実に一つずつ積み重ねています。お子さまの確かな学びを、長い目で見守ってあげてください。